

## 第2学年 算数科実践事例モデル (在籍学級)

### (1) 単元名 三角形と四角形 「形をしらべよう」

### (2) 対象児童の状況

対象児童	母語 (出身国)	日本語習得状況	算数科に関する力
A	ビサイヤ語 (フィリピン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来日3年目</li> <li>・あいさつ、学習でよく使う言葉は理解できるようになってきたが、長い文章になると理解が難しい。</li> <li>・家では母語、学校でも同じ母語の友だちとは母語を使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算、引き算の計算に慣れ、筆算にも意欲的に取り組むようになった。</li> <li>・形を見て、英語で「三角」「四角」が言える。</li> </ul>

### (3) 単元の指導方針

学級の子どもたちは活動的で、新しい学習に興味をもって取り組む。特に図形の学習においては、具体的な操作活動が大切であると考え。図形の分類や整理、紙を折ったり切ったりするなどの算数的活動を通して、徐々にそのイメージを抽象化していくような展開にしたい。

本単元では、さまざまな図形についての用語や定義を学習する。定義に出てくる「直線」「囲まれている」という言葉は意味を捉えにくいので、絵やフラッシュカードを用いて理解を促す。

また、ノートやワークシートにまとめたり、用語を繰り返し声に出して確認したりすることで定着を図りたい。このように、わかりにくい言葉を視覚的に捉えさせたり、反復練習したりすることで、一つひとつの意味をしっかりとおさえながら学習を進めていく。

本時では、「三角形」「四角形」の弁別理由を言えることが目標の1つとなっている。そのため発問と答え方をパターン化し、子どもの発言を促す。また、国語科でもわけを表す時は「～からです。」を使った表現を繰り返し学習し、本時の学習に活かせるようにしたい。

### (4) 単元の目標

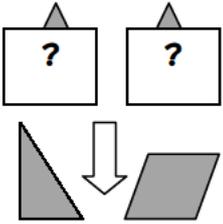
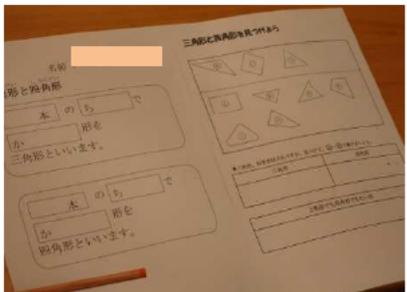
#### ① 教科の目標

- ・身の回りにあるものの形の中から、三角形や四角形、長方形や正方形などを見つけようとする。(関心・意欲・態度)
- ・辺や頂点などの構成要素に着目して、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見いだすことができる。(考え方)
- ・紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりすることができる。(技能)
- ・三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解する。(知識・理解)

#### ② 日本語の目標

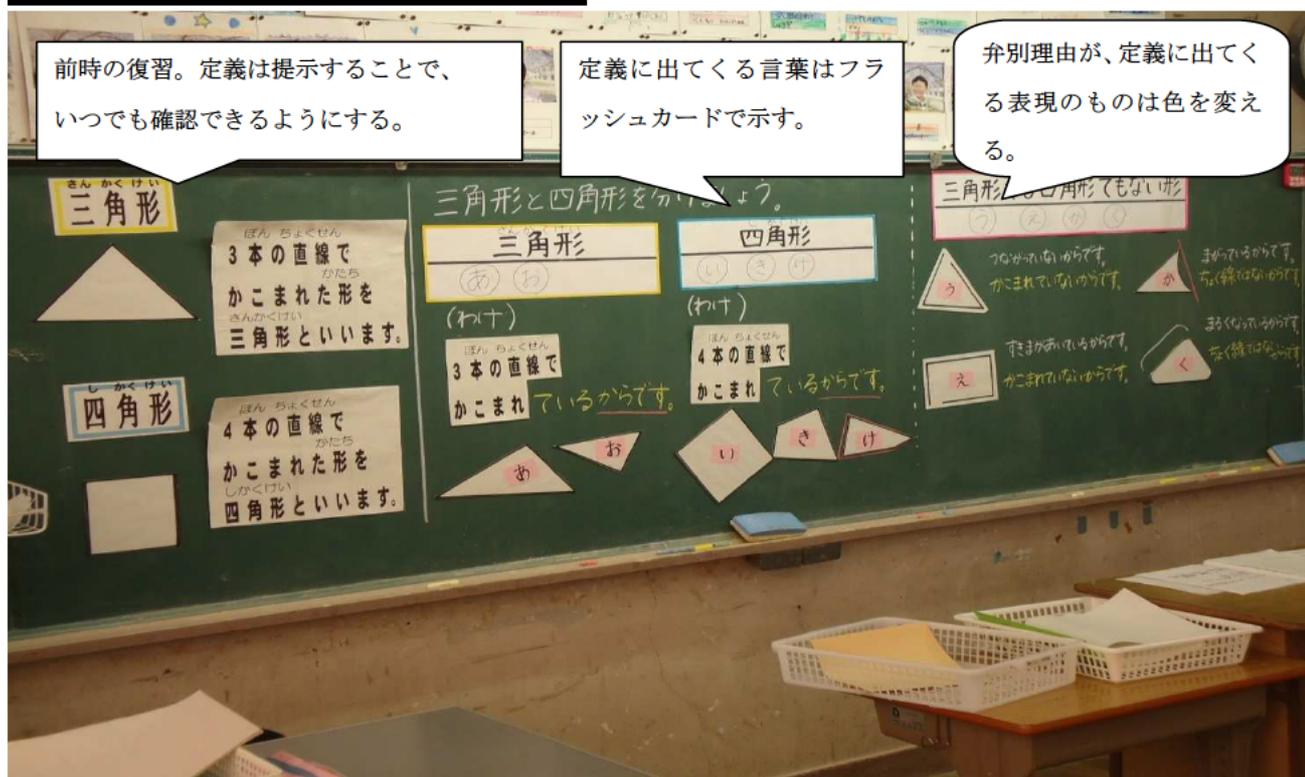
- ・三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形という用語に慣れる。
- ・「三角形」「四角形」等の定義や、「辺」「頂点」等の図形用語について理解するとともに、形を弁別するときに正しく説明することができる。

## (5) 単元の指導 (小単元全4時)

次	学習活動	教師の働きかけ (発問○) 日本語表現の支援 (●)	指導上の工夫・留意点 (板書・ワークシート等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の絵を直線で囲む。</li> <li>いろいろな線を見て、「直線」の意味を知る。</li> </ul>	○動物が逃げないように、直線でかこみましょう。 ○このような線を何といいますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートやフラッシュカードを用いて、「囲まれている」、「囲まれていない」、「直線」、「直線ではない」の意味を視覚的におさえる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三角形」や「四角形」の定義を知る。</li> <li>図形を構成する直線の数に着目して「三角形」「四角形」を弁別する。</li> </ul>	○三角形と四角形になかま分けをしましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「1、2、3、(4)、ピタ」という言葉を言ったり、指でなぞったりして、直線の数や「囲まれた」の言葉の理解支援をする。</li> </ul>
3	<p><b>本時の目標</b></p> <p>①教科の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定義に基づいて、三角形と四角形の弁別をすることができる。</li> </ul> <p>②日本語の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図形を見て、「三角形」「四角形」という名前が言える。</li> <li>「直線」「囲まれている」などの意味を理解し、図形を弁別することができる。</li> </ul> <p>1. 今までの学習を振り返る。</p> <p>(1) 封筒に入っている図形を予想する。</p>  <p>(2) 「三角形」「四角形」の定義を確認し、ワークシートに記入する。</p> <p>2. 本時の課題を知る。</p> <p>(1) 「あ」～「う」までは全体で考え、ワークシートの書き方を確かめる。</p>		
<p>○何の形が入っていると思いますか。</p> <p>C：三角形です。</p> <p>C：全部見ないと分からないけどたぶん三角形だと思います。</p> <p>●この形は何ですか。</p> <p>C：三角形(四角形)です。</p> <p>●なぜ三角形(四角形)だと言えますか。</p> <p>C：3(4)本の直線で囲まれているからです。</p> <p>・「あ」～「け」の図形を「三角形」「四角形」「三角形でも四角形でもない形」に分けましょう。</p> <p>●「あ」は何という形ですか。</p> <p>C：三角形です。</p> <p>○ワークシートの「三角形」のところに「あ」と書きましょう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>チャートや図形を掲示し、視覚的に理解させる。</li> <li>用語を個人で言ったり、班ごとに一人ずつ言ったりして定着を図る。</li> <li>「1、2、3、ピタ」という言葉を言ったり、指でなぞったりして、辺の数や、「かこまれた」の言葉の理解支援をする。</li> </ul>	

	<p>(2) 「え」～「け」の図形を個人で弁別する。</p> <p>(3) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三角形、四角形、三角形でも四角形でもない形はそれぞれどれかを発表する。</li> <li>・ 図形を弁別したわけを答える。</li> </ul> <p>4. 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定義、弁別した理由を声に出して読む。</li> <li>・ ワークシートを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「え」は何という形ですか。 C: 三角形でも四角形でもない形です。</li> <li>● なぜ「え」(「か」「く」)は三角形でも四角形でもないのですか。 C: 囲まれていないからです。 C: (直線ではないからです。)</li> <li>● 「お」は何という形ですか。 C: 三角形です。</li> <li>● なぜ「お」は三角形ですか。 C: 直線が3本あるからです。 C: 3本の直線で囲まれているからです。</li> <li>● 「き」(「け」)は何という形ですか。 C: 四角形です。</li> <li>● なぜ「き」は四角形ですか。 C: 直線が4本あるからです。 C: 4本の直線で囲まれているからです。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の学習のまとめをします。</li> <li>・ みんなで読みましょう。</li> <li>・ 今日の勉強で分かったことをプリントに書きましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aさんが困っている時には調べる視点を示し、ワークシートに書いているか見届ける。</li> <li>・ 板書とワークシートは同じ形式にする。</li> <li>・ Aさんが定着できていない漢字にはルビをふる。</li> <li>・ 図形のカードはひとつずつ移動させ、視覚支援ができるようにする。</li> <li>・ 「囲まれていない」「直線ではない」「直線が○本」など、キーワードとなる言葉を板書に残すようにする。</li> <li>・ 発問と答え方をパターン化し、「～からです。」という表現を用いて、弁別した理由を言えるようにする。</li> <li>・ 定義を隠して読ませたり、弁別理由を「～からです」を使って答えさせたりして、繰り返し確認することで定着を図る。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「辺」「頂点」の用語を知る。</li> <li>・ 格子点を結んで、三角形や四角形を構成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角形(四角形)には辺はいくつありますか。</li> <li>○ 三角形(四角形)には頂点はいくつありますか。</li> <li>○ 点と点をつないで三角形(四角形)をかきましよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図を用いて「辺」「頂点」を確認する。その時に、色分けをし、視覚的に捉えさせて理解を促す。</li> </ul>

## (6) 板書及びワークシート・配布資料



## (7) 単元を通じての成果と課題

- ・図形の定義や用語をフラッシュカードにまとめ、何度も声に出して確認した。授業の初めに前時の復習を毎時間行うことで、定義や用語を定着させることができた。
- ・「囲まれている」という言葉を学習する際に、実際に動物の絵を囲んだり、絵を示して「囲まれている」「囲まれていない」を答えたりする活動を取り入れることで、「囲まれている」の意味を理解させることができた。
- ・発問と答え方をパターン化することで、対象児童もたくさん挙手をして発表することができた。このことは「わかった」「できた」という自信につながった。
- ・言葉を意識的に用いることで、「～からです。」という表現においては、国語科をはじめ、他教科でも活用させることができた。
- ・板書とワークシートを同じ形式にすることで、子どもたちが学習内容を振り返り、頭の中で整理したりすることに役立った。
- ・定義や用語を繰り返し声に出すことで、学習内容を理解できる一方、授業が単調になってしまい、授業に集中しにくい子もみられた。
- ・パターン化することに注意がいてしまい、子どもたちが多く間違えていた図形を丁寧に確認することができていなかった。なぜそう考えたのかという弁別した理由をたくさん出していき、子ども同士が互いに発表し合う中で解決に導いていけたら良かった。